

安心とつながるおしの下町「川の手」をめぐりて

# 防災 まちづくり 瓦版

発行ノ寺言問を防災のまちにする会

平成8年4月1日

**高層製衣薬跡地に  
防災まちづくり広場、完成**

4/20に  
完成祝賀会を  
開催します



△ 防災まちづくり広場  
中央部分は通り抜け道路になっています。



「おーい、みんな無事か」

その声に、私と母があわてて玄関まで出てみると、おじさんが大きなリュックを背負い、両手にいっぱい荷物を持って立っている。このおじさんは、東京に住んでいる。

「大丈夫、家の中はめちゃくちゃだけど、家族四人みんな無事です。」

「そりゃよかった。神戸に地震が起きたってテレビのニュースで聞いてね。すぐに電話をかけたのだけれど、まったく通じなくてね。おじさんや健二もとっても心配して、私に様子を見てほしいと言っただよ。」

「おじさん、どうも心配してへれてありがとうって言います。昨日とおとといの三日間は、小学校に避難していたのだけれど、寒くて寒くて仕方がないので、さっき家にかえってきたところなんです。こんな地震が神戸に起こるなんて思ってもいなかったので、ごへ避難したりおじのかわりなんて困りました。」

「ええっ、避難することさも知らないのかい。東京では自分が避難するところを小学生でも知っているよ。」

「そういえば、私が小学校のころ、そんな話を聞いたような記憶があるよ。はっきりと覚えていないけど、机の下に隠れなさい。といわれたのを見ていてから、それが地震があった時のことだったのかしら。」と母が昔の記憶をたどりながら話している。おじさんは、

「東京では、一か月に一回くらい、自治会から避難板が回ってきてね。避難場所はここだから、地震が起きた時には、すぐに飛び出さず、揺れがとまりのをまちなさい、とが注意可能なことが書いてあるんだよ。」

「健二君の中学校でも、そんなことやってるのでした。」

「そうだよ。訓練の日があるからだよ。」

「火事の避難訓練はしたけどなめるなればよ。地震

# 高田製薬跡地と一言会

昭和62年に発足した一言会は、まずはじめに、一寺言問地区を災害に強いまちにしたいという思いをこめて、「一寺言問の防災まちづくり計画」をまとめた。区へこの計画を提案すると、区では「一寺言問地区整備計画」を策定（昭和63年）。内容は、一言会の計画が生かされたもので、その中には、災害時の拠点である一寺小と言問小を結ぶ道路沿いに、防災施設を備えた広場をつくること盛り込まれていました。

## 完成祝賀会について

一言会では、4月20日（土）午後1時より、この一寺言問防災まちづくり広場で、広場完成の祝賀会を開催します。祝賀会の中では、セシモニーの他に、すいとんの炊きだしやこれまでの一言会の活動をパネルで紹介します。

広場の場所は、一寺小の角を南へ曲がったところになります。鳩の街からは、寺島保育園の横の道をちょっと北に歩いていったところへ。

## 災害に強いまちづくりシンポジウム



一言会、パネルとは参加

阪神・淡路大震災の教訓を生かし、だれもが安心して住めるまちにしようと、2月27日に埼玉県上福岡市で、災害時の住民の役割、行政の役割を考える「災害に強いまちづくりシンポジウム」が開催

## 私がまちづくりです



36 堤通一丁目  
朝賀清 さん

昭和六年、新潟県に生れる。雪深い十日町市から、さらに入った豪雪地帯で少年時代を過し、墨田区に転居してくる。同族会社だった（株）タツノ化学（ビニール製造販売）の総務に席をおき、当時は工場があって、人手不足だったので、従業員探しに地方まわりをした。子会社の役員も兼務していたが平成六年に退職する。

町会から声がかかり、青少年部、文化厚生部の副部長、青少年有成本員、一言会の理事になる。「町に住み慣れて半世紀、会社人間でしたので、地域とかかわるには限度があった。これからは時間のゆるす限りまちづくりにも参加したい。」

小型船舶のライセンスを持ち、釣や舟遊びに出かけるアウトドア派だが、ハチ代市役所に頼まれて軽度の障害者に社交ダンスを教えたこともある。

庚午年よりお若く見える。若さの秘訣は多岐な趣味のせいだろうか。ワイン好きがこじりて、フランスまで飲みに行ってしまうと言うから、かなりの凝り性と思われる。

いちでらこととい  
一寺言問/防災まちづくり互版  
第39号 平成8年4月1日発行  
編集/一寺言問を防災のまちにする会・編集局  
高原純子・若木菊枝・植竹モト  
阿部洋一・明間 藤・中村淑子  
編集協力/マヌ都市建築研究所  
発行/一寺言問を防災のまちにする会・事務局  
墨田区まちづくり事業推進部地域整備課内  
〒130 墨田区吾妻橋1-23-20 Tel.(5608)6261

その後、一言会は、計画を具体化していく活動の中で、当時から空き地であった高田製薬跡地をその防災広場にしてほしいと区に要望しています。区はこれを受け、所有者に交渉を始めましたが、地価が上がりつつある時期で、なかなか買収はできませんでした。

区へ要望してから8年、いろいろなきとがあり、この防災まちづくり広場はできあがりしました。

この広場は、「一寺言問地区」の広場です。

## 集会所の管理について

区は、この一寺言問防災まちづくり広場に建つ建物の正式な名称を「一寺言問集会所」と決めました。また、この集会所の管理方法は、ふつうの集会所と同じ管理協議会方式で、地元の南町会と中町会にその協議会をつくってほしい言が伝えられたそうです。南町会と中町会では、その協議会づくりが進められています。

されました。一言会はパネルとして墨田区とそのシンポジウムに参加しました。会場には地元町会や自治会の方々をはじめ、まちづくりに関心をもつ多くの参加者の熱心な姿がありました。「路地尊」や、他にパネルとして参加していた国分寺市の「市民防災まちづくり学校」に質問、意見が多かったです。災害弱者に対する取り組みや、緊急車両の妨げになる違法駐車の問題などにも話題がおよび、パネルとして参加した私たちにとっても、一言会の今後の活動を考えるべく上でも参考になりました。

一寺言問地区防災生活圏促進事業終了  
今後の互版発行について  
一言会は、会の発足した昭和62年から、この「防災まちづくり互版」を、『防災生活圏促進事業』によって、およそ3回のペースで発行を続けてきました。その『防災生活圏促進事業』は、この3月をもって終了します。今後の互版の発行およびその方法については、現在検討を行っている段階です。

今後の互版についてご意見等ありましたら、編集局までお寄せください。

つ分けて飲みました。」

「おじさんの住んでいるところは、墨田区だろ。そこは、関東大震災の時、多くの死傷者がでてね。それで裏通りに『路地尊』という水場があったね。江戸時代、道端に天水桶が置かれ、火消しに使われてたんだけど、それをまねた発想なんだ。地下の水槽に数トンの雨水がためてあって、収納箱に消火器やバケツを備えるところもあるんだよ。実際に火事の際にバケツリレーで消し止めたこともあったよ。それに飲料用にもできるんだよ。」

おじさんは、大きな荷物の中から、ベッポポトに入った水や乾パン、魚の缶詰め、タッパーに入れた野菜の煮物などを出してくれました。

神戸市教育委員会編集  
中学校副読本（平成8年度版）より抜粋

の訓練なんかしたことがないわ。地震なんて北海道や静岡のあたりのことくらいにしか考えてなかったもの。」

「そうすると、この家には避難袋なんてないんだろかね。」

「ないです。地震がおこった時、電気が消えてテレビもつかないから、何がどうなったのかさっぱりわかりませんでした。常備灯だけあったので、着るものをいっぱい着て外へでたのですよ。」

「ラジオもなかったのかい。」

「ええ、何にも。ラジオはあったけど、電池はいれてなくて役に立ちませんでした。」

「食べるものは？」

「特に避難用には用意してなくて、たまたま買ってた食パンをそのまま食べたり、牛乳を少しずつ飲んだりしました。水は、昔からおはあちゃんがかん一杯分は前の晩にためておきなさいといっていたので、それだけあって、家族で少しづつ分けて飲みました。」

阪神淡路大震災の被災地 神戸より

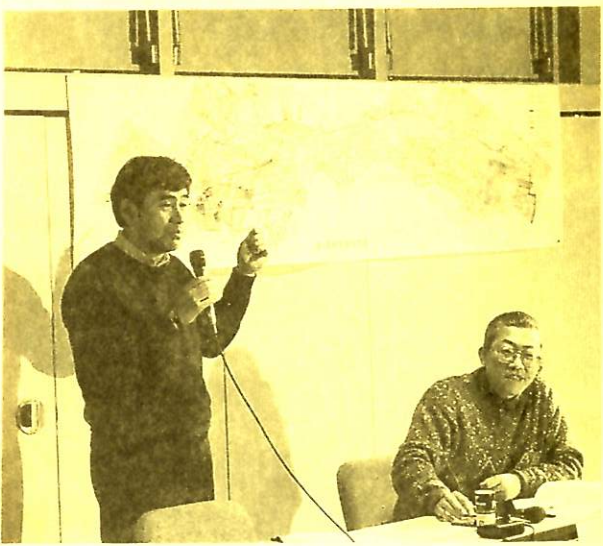
# 「神戸市民語り部」

## 「キャラバン隊」が

### やってきた!

1月13日(土)、向島で開催された被災体験を聴く会から

▼神戸の復興まちづくりの現状を説明する  
キャラバン隊のメンバー



阪神淡路大震災から1年余りが経過しました。新聞やテレビなどのマスコミは、この1周年に合わせて、様々な特集を組んでいました。その中でも度々紹介され、「震災はまだ終わっていない」「東京の市民が、いま、阪神の被災体験から防災を学び始めた」ということを強くアピールしてきたのが、「神戸市民語り部キャラバン隊を招いて阪神淡路大震災の被災体験を聴く会」でした。

被災体験を聴く会は、1月13日と14日の2回にわたって、向島と中野とで開催されました。両日とも参加者は500名を越え、立ち見も出る程の盛況ぶりでした。向島での開催は、向島地区町会自治会総連合会が中心となって企画・実施され、一言会も第二部の「街づくり」分科会の担当として参加・協力しました。

会は二部構成で、第一部は講演会。講師は、最も火災が激しかった長田区の消防団員として、地震直後から生き埋めになった近隣住民の救出活動を行ってきた古市忠夫さんと、被災地の神戸大学の教授で、防火・防災研究の第一人者である室崎益輝さんのお二人。第二部は、テーマ別に5つの分科会に分かれて、それぞれ意見交換がされました。

「神戸は関東大震災の教訓を活かしてはなかった。無念です」と語る  
室崎益輝さん

「災害に強いまちづくりには、地域住民の参加が最も重要」と語る  
古市忠夫さん



第2部の分科会パネルディスカッションに参加された若桑巖さんは、阪神・淡路大震災で実のお姉さんを亡くされました。被災者の身内として、神戸へ何度も足を運び、体験されたこと、感じたことを、取材させていただきました。



震災直後の神戸  
お話を伺った  
若桑巖さん  
(神戸・地蔵坂通り)

神戸に親戚が五人いて、元町駅前に住んでいたお姉さんは亡くなった。それ以外の親戚は、被害の程度の差はあったが避難所生活はしないで済んだ。

お姉さんのご主人は、高台の病院に入院していたので無事だった。10分程しか離れていない所なのに、場所によってはつきり明暗がでた。

大阪にいた若桑さんの弟さんは、地震直後、自分の家族の安全を確認して、お姉さんの安否を気づかい、オートバイを走らせた。いつもだったら、車で1時間位でいけるところだったが、倒壊した建物が道をふさぎ、車で逃げる人があふれて、7時間かかってやっとの思いでたどり着いた。

崩れた家、ちりばったガラス、元町駅前には眼を疑う程の荒廃ぶりで、地獄絵のようだった。お姉さんの家は壊れてはいなかったが、何かいやな予感がした。消防や警察に頼んで、家をこじ開けてもらった。中は倒壊した家具でメチャメチャでお姉さんは圧死の状態だった。あつという間のできごとだっただろう。

## 不守を

### 繰り返さないために

地震はいつくるかわからない。家族がいても自分の身は自分で守るしかない。どこで寝ていたのが、部屋の構造により、ちょっとした違いが生死にかかわる。

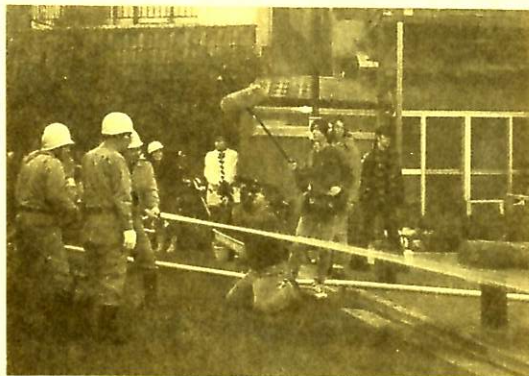
交通規制し、消防車、救急車など優先させる。右往左往する車がじゃまして消防自動車、火事の現場に近づけない。車に踏みつけられたホースは穴が開いて消火できなかった。

マスコミ問題。新聞社やテレビ局各社がヘリコプターを飛ばして報道したが、助けを求めるかほそい声、その音にかき消されていた。災害の時、マスコミは協定して映像を流し余分なヘリコプターをとばさない。

自衛隊がきても、その地域を知りぬいた人がいなければ、即、戦力にはならない。

避難場所、水、食料、医療など行政は迅速に平等に動いてほしい。それには地域を熟知し、地域と連携した防災計画をたてること。

キャラバン隊の人も言っていたが、復興には十年以上かかると思う。力のないお年寄りや望むなら、できることとなり、国や県で家を建ててあげたらいいと思う。震度7の直下型地震がきたら、まちがなくなると東京は大混乱になる。そのとき何ができるのか。



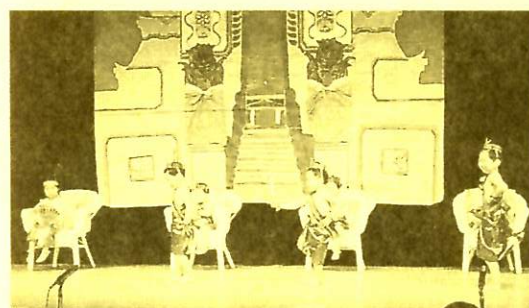
①フジテレビで墨田区特集

2月1日「どうなってるの!?(フジテレビ)」という番組で、会古路地(東向一)の防災訓練、雨水利用、うまいもの店など紹介されました。



②豊島区の住民が事例見学会

1月27日「池袋本町、防災まちづくりの会」が一寺言問地区に訪れ、商店街の様子や路地尊、道路整備など熱心に見学されました。



③春をよぶ「おゆうぎ会」

2月17日、墨田幼稚園のおゆうぎ会が開かれ、可愛い園児の演技に拍手が湧き、ママさんコーラスも参加するアットホームなものでした。



④見て見てッ、手づくり卒業記念品

今年の言問小の6年生52名は、卒業記念に全校の下駄箱の表示板を、手ほりで作りました。うれしい完成の日、みんなそろって、イチたすイチはニ!



⑤育て! ぼくらのナポレオン

さくらんぼ遊園(向島五)に12月3日、本物のさくらんぼ・ナポレオンが植えられました。よい子たちが毎日水をやって、「夢」と苗木を育てています。

キャラバン隊のみなさんは、災害について考えるきっかけにと、阪神・淡路大震災での体験を、東京のわたしたちに話してくださいました。その会から2ヶ月あまりがたちます。

阪神淡路大震災の被災地のことや、東京に地震が起こったときのことについてあの会をきっかけに、一寺言問地区に住むあなたは、今、どんなことを考えていますか。

## 一寺言問地区に住む 「私たちが考えるべきこと」

キャラバン隊の話で一貫していたのは、「他人任せでなく、地域住民全員で自分の街を守ろう」という意識が必要だということ。特に被災生活では主婦の活躍が大きかったそうで、「男は被災直後なのに会社優先。街づくりには、主婦の参加が、大切だ」という話がありました。地域住民で町を守っていくためには「地域みんなで遊ぶ機会を多く持つ」こと、そしてその遊びを通して「自分の住むまちに生きるということ」を、みんなが考え直してみるのではないかと提案されました。

## ▼当った区画を石籠認〜雪の残る有季園で



2月22日、向島有季園にて、第7期利用者の抽選会が行われました。前号の瓦版での募集で、10名の方から



応募がありました。有季園の区画数は12。そこで今回は応募者全員に利用が決まり、利用する区画を決めるための抽選のみ行われました。残った区画については、利用者の方にその管理をお願いしました。

抽選会後の利用者会議では、毎年利用者を悩ませている虫の問題が話題になりました。みんなで話しているうちに、作付けする前に一斉に消毒すること、その消毒の方法がまとまりました。今年の有季園にどんなのが実るか、今から楽しみます。

区画名	氏名	区画名	氏名
めじろ	石橋 清子	しじゅうから	田中 孝一
しらさぎ	瀧上 伝	ほととぎす	久保田松子
つばめ	金山浜三郎	こじゆけい	植竹 モト
かもめ	石橋 康人	じゅうしまつ	中村 明男
せきれい	日原 光照	ちどり	敷波 静恵
みやこどり	瀧上 留理	うぐいす	須田 守男